

# キリスト教のグローバルな本質と 国際キリスト教教育



副院長・大学宗教学主任  
シュー士戸ポール  
Paul Tsuchido Shew

キリスト教は本質的に国際的です。

初期の時代から、キリスト教はグローバルで多様な性に富んでいました。そして、その初期からその利点と欠点が見えていました。利点は、キリスト教の信仰が文化を超え、多様な民族や社会を容易に受け入れ、公正、平和かつ包摂的な社会を推進できることです。欠点は、キリスト教が社会的、政治的、文化的な影響を受け、イエス・キリストの教えにそぐわない方向に進んでしまうことが少なくないことです。キリスト教が、包括的であることを目指す中で、周囲からの影響を受けやすく、墮落する危険性もあります。

## キリスト教と文化

キリスト教のグローバルで多様な性質は、イエス・キリストと初代教会の教えに根ざしてい

の出身でしたが、イエスを信じるためにユダヤ人になる必要はないと理解していました。使徒パウロは、シリア、小アジア（現在のトルコ）、ギリシャとその周辺地域に新しい教会を設立しながら、文化に対するより自由なアプローチを提唱しました。このような厳格なユダヤ人信者と異邦人（非ユダヤ人）信者の対立は、使徒言行録15章に記されているように、紀元50年頃のエルサレム会議で頂点に至りました。厳格なユダヤ人キリスト教信者は、キリスト教信仰がユダヤ教の延長線上にあり、すべてのキリスト教徒はユダヤ教の伝統的な習慣に従わなければならないと主張しました。しかし、イスラエル以外の教会には、ユダヤ人の習慣に従うことに関心のない異邦人信者が増えていました。エルサレム会議で決定されたのは、異邦人信者にユダヤ教の伝統文化や習慣を押し付けることなく、そのまま受け入れることでした。

エルサレム会議では、キリスト教信仰の鍵は文化ではなく、イエス・キリストの福音であることを確認したのです。これが、ユダヤ教とキリスト教の最も重要な違いと言えるでしょう。ユダヤ人であっても、イエス・キリストを信じることはできません。しかし、ユダヤの文化なしにユダヤ人になることはできません。ユダヤ教にとっては、文化や伝統そのものが神聖なものなのです。しかし、キリスト教信者にとって、イエス・キリストの福音は文化を超えるものです。つまり、キリスト教

ます。イエスは包括的であること、そしてその寛容性で有名でした。イエスは、主流社会が敬遠する人々を受け入れました。徴税人はローマ帝国のために働く職業として軽蔑されていましたが、イエスは彼らを受け入れました。重い皮膚病の人は排斥されていましたが、イエスは彼らを受け入れました。女性は二級市民として扱われていましたが、イエスは女性を歓迎しました。イエスは、のけ者にされていた人々を受け入れられたのです。そして、公生涯の最後には、弟子たちに、自分の教えを全世界、すべての民へ広めるように命じました。イエスはグローバルで包括的なヴィジョンを持っていたのです。

イエスの公生涯の後、その信仰運動は、特に社会的に貧しい人や弱い立場の人々の間に広がっていききました。彼らは宣言しました。「ユダヤ

の信仰は最初から文化に対し包括的でした。

ローマ人やギリシヤ人は、自分の文化的、民族的アイデンティティを保ちながら、イエスを信じることでできたのです。キリスト教信者になるために、自分たち独自の文化的、民族的アイデンティティを否定する必要はなかったのです。このことが、キリスト教のグローバルな本質の鍵となっています。

## プロパガンダなどの影響における弱さ

このようなキリスト教の包括性は、キリスト教にとっても、世界にとっても、利点となっています。それは、特にマイノリティや社会的弱者、のけ者にされている人々に対して、包括的な寛容性を奨励するものです。しかし同時に、これは、キリスト教がナシヨナリズムや原理主義に墮落する道を開くものでもあります。イエスは「私の国は、この世のものではない。」（ヨハネによる福音書18章36節）と述べ、明確にナシヨナリズムや政治的力を否定しました。しかし、キリスト教が民族主義的な政治運動に取り込まれるとどうなるでしょうか。キリスト教団体が、他の文化や民族を排除するような原理主義的な信念を採用したらどうなるでしょうか。その結果は、キリスト教にとっても、世界にとっても不利益なものです。

どんな宗教でも、社会的、政治的、文化的な戦いの武器や手段になる可能性があります。これは、

人もギリシヤ人もありません。奴隷も自由人もありません。男と女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあつて一つだからです。」（ガラテヤの信徒への手紙3章28節）

しかし、使徒言行録に記録されているように、異なる民族間でかなりの対立があつたことがうかがえます。厳格なユダヤ人信者は、ギリシヤ人信者に自分たちと同じ宗教的・文化的慣習に従うことを要請していました。保守的なユダヤ人キリスト教信者は、イエスを信じる人は皆、ユダヤの伝統的な習慣に従うべきだと教えていました。しかし、ギリシヤ人やローマ人にとって、それは実現不可能なことでした。ユダヤ人の習慣に従うことは、自分たちの文化的アイデンティティを捨てることになるからです。偉大な伝道者であり、初代教会の指導者である使徒パウロは厳格なユダヤ人

キリスト教が他の多くの世界の宗教と共通する欠点です。キリスト教の歴史の中で何度も起きており、今も起きています。ローマ帝国は4世紀にキリスト教を取り入れた後、躊躇することなくキリスト教を政治的手段として利用しました。ヒトラーの時代のドイツの教会は国有化され、ナチスのプロパガンダの道具として使われました。現代、アメリカのキリスト教福音派の一部は、保守的な政治的アジェンダを推進するために関わりがあるとされています。イエスの教えから離れ、利用されてしまう危険性に留意する必要があります。

## キリスト教学校教育の役割

キリスト教学校とキリスト教学校は、キリスト教信仰のグローバルな性質を確認するために特別な役割を果たすべきであり、一方でキリスト教が政治的または民族的な運動に取り込まれる危険性を警告する必要があります。イエスの包括的な寛容性は、特にキリスト教教育によって再確認される必要があります。キリスト教学校は、キリスト教をそのグローバルで包括的なルーツに戻すために不可欠な役割を担っています。キリスト教学校としての私たちの教育課題には、キリスト教信仰が不可欠です。そして、私たちの研究と教育は、公正、平和、そして包摂的な社会を促進するために、キリスト教がその創設の原則に忠実であり続けるためにも不可欠です。